



わが家のアイドル



敷根にお住まいの

土屋 敦さん・あずささんの

次女 **美桜**ちゃん (1歳1か月)

こんにちは美桜です。

お父さんとお風呂に入るのが好きです。

葉月 (はづき) 姉ちゃんは、いっぱい遊んでくれてお世話もしてくれるから、大好きで～す!!

下田市内の指定文化財

その47

下田市指定文化財 (書籍)

下田年中行事

所蔵 下田市

指定日 昭和44年4月25日

江戸時代の下田は、東南海上交通の要衝として「出船入船三千艘」と称されるほど繁栄しました。しかし古記録の多くは、地震や津波によって失われ、今日、当時の出来事を知るの大変難しくなっています。そんな中『下田年中行事』は、江戸時代の下田の姿を今に伝える貴重な史料として下田市の文化財に指定されています。



下田年中行事

『下田年中行事』

下田町書役 (現在の書記)

だった平井平次郎が、町政の執務資料として書き上げた全八十七巻の書物で、十数年を費やして、江戸時代後期の天保十四年(1843)に完成しました。

その内容は、下田年中行事の題名となった町の行事や式の作法に始まり、祭りの由来、社寺の縁起、訴訟に関する記録、幕府の触書、難破船の取り扱いなど多岐にわたって詳細に記され、古老から聞いた昔の下田の話や、火事、行方不明者の捜索、大榎商人の暗殺事件、心中事件などの巷の出来事にも触れられています。そして江戸時代前期の御番所時代(海の関所の時代)の検問体制や廻船問屋、検問料金などが丹念に記されていることは、この時代の歴史を



平井平次郎翁肖像 (平井平八郎氏蔵)

今に伝える数少ない史料の一つとして、その価値をゆるぎないものにしていきます。

平井平次郎翁

幼い頃より勉学を好み、平井家の養子となつて後、町会所の書役として四十年余り町務を勤めました。翁は性格が温厚で、同僚にも好かれ、故事に通じ博学だったため人々から下田文庫翁と呼ばれていました。晩年は年寄役を務めました。晩年は年寄役を完成後に程なく亡くなり宝福寺に葬られました。



平井翁碑 (下田八幡神社)

『下田年中行事』は、下田町の最も重要な書物として、安政の大津浪では、役人が抱きかかえて山に逃げたと伝えられています。明治以降は町長室の専用本箱に厳重保管されながら受け継がれ、今日も下田市の宝として、大切に保存され続けています。

問合せ先

教育委員会生涯学習課

☎ 235055

